

■絵本の部■

日本子どもの本研究会 絵本研究部 鈴木 佳代子

■はじめに

- ・よい絵本に出会うことの難しさ
- ・あかちゃんの時からメディアとの接触で、子ども達の日常が変化している(資料1)
- ・時代と共に変わっていく価値観
- ・読み物が担ってきた領域に絵本が進出
- ・絵本を楽しむ場が広がって(資料2)
- ・人として信頼できる価値観を育てる絵本の役割

■物語絵本

- ・育ちの場としての子どもの遊びや日常を描いて
- ・“友達って”・・・気持ちを考えてみよう
- ・「食」を通して、日常が豊かになる
- ・発想は楽しく
- ・自然の中で
- ・時空を超えて
- ・不思議な世界は、想像を膨らませて
- ・有名作家の作品も、語り継がれたお話も、家族など小さな輪の読み聞かせで
- ・動物や小枝が大活躍
- ・日本文化を楽しもう

■自然・生活など知識絵本

知ることは共感や、もっと知りたいという気持ちも育て、会話がはずむ

■幼い子の絵本

発達に即した表現や、配慮がされて楽しい想いが広がる

■生き方を考えさせてくれる絵本

メッセージをみんなのものに、絵本の可能性に賭け、手渡す工夫も

■東日本大震災を忘れない

■戦後70年をうけとめて

資料1 『メディアにむしばまれる子どもたち—小児科医からのメッセージ—』田澤雄著作 教文館

資料2 『ちょっと不思議な絵本の時間 大人が読みあい語りあう』NPO法人Re~らぶ編 かもがわ出版

■物語絵本

<子どもの遊びや日常を描いて>

	初級	『ぼくが好きなこと』/中川ひろたか・文, 山村浩二・絵/ハッピーオウル社/2015. 2/¥1300/(E)
★	中級	『アンドルーのひみつきち』/ドリス・バーン・文・絵, 千葉茂樹・訳/岩波書店/2015. 7/¥1300/(E)
★	初級	『カボチャのなかにたねいくつ?』/マーガレット・マクナマラ・作, G.ブライアン・カラス・絵, 真木文絵・訳/フレーベル館/2015. 9/¥1300/(E)
★	初級	『あるひ、いつものがくどうで。』/サトシン・さく, ドーリー・え/えほんの杜/2015. 11/¥1300/(E)

<“友達”って…気持ちを考えてみよう>

	初級	『けんかともだち』(ひまわりえほんシリーズ)/丘修三・作, 長谷川知子・絵/鈴木出版/2015. 4/¥1300/(E)
	初級	『ともだちってだれのこと?』/岩瀬成子・作, 中沢美帆・絵/佼成出版社/2015. 5/¥1300/(E)
	初級	『あいつとぼく』(わたしのえほん)/辻村ノリアキ・作, 羽尻利門・絵/PHP研究所/2015. 6/¥1300/(E)
★	初級	『どんなきもち?』/ミース・ファン・ハウト・さく, ほんまちひろ・やく/西村書店/2015. 6/¥1300/(E)
	上級	『ジェーンとキツネとわたし』/イザベル・アルスノー・絵, ファニー・ブリット・文, 河野万里子・訳/西村書店/2015. 6/¥2200/(E)
	初級	『ちいさなオレグ』/マーガレット・コート・作, ジョン・コート作, 石井睦美・訳/BL出版/2015. 12/¥1500/(E)
	初級	『くれよんがおれたとき』/かさいまり・さく, 北村裕花・え/くもん出版/2015. 12/¥1400/(E)

<食を通して、日常が豊かになる>

★	初級	『うめぼしさん』/かざわとしこ・文, ましませつこ・絵/こぐま社/2015. 2/¥1200/(E)
	初級	『あひる』/石川えりこ・作/くもん出版/2015. 7/¥1500/(E)
★	初級	『にんじんのにんにん』/ふるやかおる・作/アリス館/2015. 9/¥1400/(E)

<発想は楽しく>

★	初級	『めがねがなくてもちゃんとみえてるもん!』/エリック・バークレー・作, 木坂涼・訳/ブロンズ新社/2015. 3/¥1400/(E)
---	----	--

	初級	『ぼくは建築家ヤング・フランク』/フランク・ビバ・作, まえじまみちこ・訳, ばんしげる・訳/西村書店/2015. 2/¥1500/(E)
--	----	---

<自然の中で>

	初級	『トヤのひっこし』(世界傑作絵本シリーズ)/イチンノロブ・ガンバートル・文, バーサンスレン・ポロルマー・絵, 津田紀子・訳/福音館書店/2015. 1/¥1500/(E)
	初級	『谷戸であそぼう 春』/相川明子・文, とみたしょうこ・絵/富山房インターナショナル/2015. 2/¥1800/(E)
	初級	『庭をつくろう!』/ゲルダ・ミュラー・作, ふしみみさを・訳/あすなろ書房/2015. 3/¥1500/(E)

<時空を超えて>

	初級	『いっぼんの木のそばで』/G. ブライアン・カラス・作, いしづちひろ・訳/BL出版/2015. 9/¥1700/(E)
	中級	『おねえちゃんにあった夜』/シェフ・アールツ・文, マリット・テルンクヴィスト・絵, 長山さき・訳/徳間書店/2015. 9/¥1700/(E)
	初級	『クリスマスイヴの木』/デリア・ハディ・文, エミリー・サットン・絵, 三原泉・訳/BL出版/2015. 11/¥1600/(E)
	中級	『だれのものでもない岩鼻の灯台』/山下明生・文, 町田尚子・絵/絵本塾出版/2015. 12/¥1300/(E)
	初級	『だいすきなマロニエの木』/オーサ・メンデル＝ハートヴィッグ・文, アネ・グスタフソン・絵, ひだにれいこ・訳/光村教育図書/2015. 11/¥1400/(E)

<不思議な世界は想像を膨らませて>

	初級	『ドングリ・ドングラ』/コマヤスカン・作/くもん出版/2015. 2/¥1200/(E)
	中級	『白い池黒い池 イランのおはなし』/リタ・ジャハーン＝フォルーズ・再話, ヴァリ・ミンツイ・絵, もたいなつう・訳/光村教育図書/2015. 2/¥1500/(E)
★	初級	『しんぞうとひげ アフリカの民話』(ポプラせかいの絵本)/しまおかゆみこ・再話, モハメッド・チャリンダ・絵/ポプラ社/2015. 4/¥1400/(E)
	初級	『ロンと海からきた漁師』/チェンジャンホン・作・絵, 平岡敦・訳/徳間書店/2015. 6/¥2000/(E)
★	初級	『夜の神社の森のなか ようかいらく(妖会録)』/大野隆介・作/ロクリン社/2015. 10/¥1500/(E)

<有名作家の作品も語り継がれたお話も、家族など小さな輪で読みきかせて>

	初級	『ロバのジョジョとおひめさま』/マイケル・モーパーゴ・文, ヘレン・スティーヴンズ・絵, おびかゆうこ・訳/徳間書店/2015. 1/¥1600/(E)
★	中級	『子どものためのラ・フォンテーヌのおはなし』/ラ・フォンテーヌ・原作, マーガレット・ワイズ・ブラウン・再話, アンドレ・エレ・絵, あべきみこ・訳/こぐま社/2015. 11/¥1400/(E)
	初級	『おうさまのくつ』/ヘレン・ビル・文, ルイス・スロボドキン・絵, こみやゆう・訳/瑞雲舎/2015. 12/¥1400/(E)

<動物や小枝が大活躍>

	初級	『おおきな3びきゆうえんちへいく』/クリス・ウォーメル・作・絵, 小風さち・訳/徳間書店/2015. 2/¥1500/(E)
★	初級	『セイウチくんをさがせ!!』(評論社の児童図書館・絵本の部屋)/スティーヴン・サヴェッジ・さく/評論社/2015. 4/¥1400/(E)
	初級	『としょかんねずみ 5 すてきなわがや』/ダニエル・カーク・さく, わたなべてつた・やく/瑞雲舎/2015. 9/¥1600/(E)
	初級	『こえだのとうさん』/ジュリア・ドナルドソン・作, アクセル・シェフラー・絵, いとうさゆり・訳/バベルプレス/2015. 12/¥1500/(E)

<日本の文化を楽しもう>

	初級	『ウルトラマンをつくったひとたち』/いづかさだお・さく, たばたけい・さく, まくたけいた・さく/偕成社/2015. 1/¥1600/(E)
	初級	『はっきょいどーん』(講談社の創作絵本)/やまもとななこ・作/講談社/2015. 9/¥1400/(E)

■自然・生活など知識絵本

	初級	『さとうとしお』(しぜんにタッチ!)/ひさかたチャイルド/2015. 1/¥1200/(588. 1)
	初級	『ぼくのまちをつくろう!』/スギヤマカナヨ作・絵/理論社/2015. 1/¥1400/(E)
	中級	『カミツキガメはわるいやつ?』(ふしぎびっくり写真えほん)/松沢陽士・写真・文/フレーベル館/2015. 2/¥1400/(E)
	初級	『たんぽぽ』/荒井真紀・文・絵/金の星社/2015. 3/¥1200/(E)
★	初級	『ハートのはっぱかたばみ』(かがくのとも絵本)/多田多恵子・ぶん, 広野多珂子・え/福音館書店/2015. 3/¥900/(E)
	初級	『みずたまのたび』/アンヌ・クロザ・さく, こだましおり・やく/西村書店/2015. 3/¥1300/(E)

★	初級	『ごはん』(日本傑作絵本シリーズ)/平野恵理子・作/福音館書店/2015. 4/¥1400/(E)
	初級	『わたしのうさぎハッピー』/みずしまさくらこ・原案, なとりちづ・文・絵/福音館書店/2015. 4/¥1200/(E)
	中級	『かき氷 天然氷をつくる』(ちしきのぽけっと)/細島雅代・写真, 伊地知英信・文/岩崎書店/2015. 5/¥1600/(588. 8)
	初級	『まっかっかトマト』(どーんとやさい)/いわさゆうこ・さく/童心社/2015. 6/¥1100/(E)
	初級	『クラゲすいぞくかん クラゲかんちょーのクラゲじまん』(ほるぷ水族館えほん)/村上龍男・しゃしん, なかのひろみ・ぶん/ほるぷ出版/2015. 6/¥1300/(E)
	上級	『せいめいのれきし 地球上にせいめいがうまれたときからいままでのおはなし 改訂版』/バージニア・リー・バートン・文・絵, いいいももこ・訳/岩波書店/2015. 7/¥1700/(E)
	中級	『ジンベエザメのはこびかた』(ほるぷ水族館えほん)/松橋利光・写真, 高岡昌江・文, 宮野耕治・絵/ほるぷ出版/2015. 7/¥1300/(E)
★	中級	『ぼくの先生は東京湾』(ふしぎびっくり写真えほん)/中村征夫・写真・文/フレーベル館/2015. 8/¥1400/(E)
	初級	『よるになると』(かがくのとも絵本)/松岡達英・さく/福音館書店/2015. 6/¥900/(E)
	中級	『ノグチゲラの親子 沖縄やんばるの森にすむキツツキのおはなし』(小学館の図鑑NEOの科学絵本)/渡久地豊・写真と文/小学館/2015. 7/¥1300/(488. 86)
★	上級	『イーダ 美しい化石になった小さなサルのものがたり』/ヨルン・フルム・文, トルシュタイン・ヘレヴェ・文, エステル・ヴァン・フルセン・絵, 遠藤ゆかり・訳/創元社/2015. 7/¥1500/(457. 89)
★	初級	『チョコレートだいすき』/デヴィッド・カリ・作, エヴェリン・ダヴィッディ・絵, さとうななこ・訳/ワールドライブラリー/2015. 10/¥1500/(E)
	初級	『おとうふやさん』(かがくのとも絵本)/飯野まき・さく/福音館書店/2015. 11/¥900/(E)
★	初級	『子どもばやしのお正月』(ランドセルボックス)/さげさかのりこ・作/福音館書店/2015. 11/¥1200/(E)
	中級	『生きものビックリ食事のじかん』(評論社の児童図書館・絵本の部屋)/ジェンキンス・作, ペイジ・作, 佐藤見果夢・訳/評論社/2015. 12/¥1400/(E)

■幼い子の絵本

★	幼児	『はみがきれっしやしゅっぱつしんこう!』/くぼまちこ・著/アリス館/2015. 1/¥1000/(E)
	幼児	『たんぽぽねこ』(チューリップえほんシリーズ)/せなけいこ・作・絵/鈴木出版/2015. 2/¥1300/(E)
	幼児	『たんぽぽはたんぽぽ』/おくはらゆめ・作/大日本図書/2015. 4/¥1300/(E)
	幼児	『うさぎちゃん 新装版』(こどものくに傑作絵本)/せなけいこ・作・絵/金の星社/2015. 4/¥1200/(E)

★	幼児	『ぼうし』(どうぶつあかちゃんえほん)/長新太・さく/のら書店/2015. 6/¥1000/(E)
	幼児	『ここがすき』/きたやまようこ・作/こぐま社/2015. 7/¥900/(E)
★	幼児	『のげしとおひさま』(幼児絵本ふしぎなたねシリーズ)/甲斐信枝・さく/福音館書店/2015. 9/¥800/(E)
	幼児	『まえとうしろどんなくるま? 1 どうろこうじのくるま』/こわせもりやす・作/偕成社/2015. 9/¥1200/(E)
	幼児	『ケーキやけました』(講談社の創作絵本)/彦坂有紀・作, もりと いずみ・作/講談社/2015. 10/¥1200/(E)
★	幼児	『ののちゃんのママごっこ』/ひがしあきこ・作・絵/くもん出版/2015. 11/¥1300/(E)
	幼児	『キッキとネネのかくれんぼ』/本田雅也・作, ももろ・絵/教育画劇/2015. 11/¥1100/(E)

■生き方を考えさせてくれる絵本

	中級	『ジャガーとのやくそく』/アラン・ラビノヴィッツ・作, カティア・チエン・絵, 美馬しょうこ・訳/あかね書房/2015. 2/¥1400/(E)
	中級	『マララとイクバル パキスタンのゆうかなな子どもたち』/ジャネット・ウィンター・さく, 道傳愛子・やく/岩崎書店/2015. 3/¥1600/(E)
★	上級	『絵本で学ぶイスラームの暮らし』/松原直美・文, 佐竹美保・絵/あすなろ書房/2015. 4/¥1200/(167)
★	中級	『ぼくは、チューズデー 介助犬チューズデーのいちにち』/ルイス・カルロス・モンタルバン・文, ブレット・ウィッター・共著, ダン・ディオン・写真, おびかゆうこ・訳/ほるぷ出版/2015. 5/¥1400/(E)
★	上級	『パパ・ヴァイト ナチスに立ち向かった盲目の人』/インゲ・ドイチュクローン・作, ルーカス・リューゲンベルク・絵, 藤村美織・訳/汐文社/2015. 8/¥1600/(E)
	上級	『お船が出る日 長崎ものがたり』/小林豊・文・絵/岩波書店/2015. 9/¥1600/(E)
★	中級	『王さまと王さま』/リンダ・ハーン・絵と文, スターン・ナイランド・絵と文, アンドレア・ゲルマー・訳, 眞野豊・訳/ポット出版/2015. 8/¥1500/(E)
	上級	『えほん障害者権利条約』/ふじいかつのり・作, 里圭・絵/汐文社/2015. 5/¥1500/(E)
★	上級	『飛行士と星の王子さま サン＝テグジュペリの生涯』/ピーター・シス・文・絵, 原田勝・訳/徳間書店/2015. 8/¥1700/(E)
	中級	『そらいろ男爵』/ジル・ボム・文, ティエリー・デデュー・絵, 中島さおり・訳/主婦の友社/2015. 8/¥1300/(E)
	中級	『木のすきなケイトさん 砂漠を緑の町にかえたある女のひとのおはなし』/H. ジョゼフ・ホプキンズ・文, ジル・マケルマリー・絵, 池本佐恵子・訳/BL出版/2015. 9/¥1600/(E)
★	中級	『ノックノック みらいをひらくドア』/ダニエル・ビーティー・文, ブライアン・コリアー・絵, さくまゆみこ・訳/光村教育図書/2015. 7/¥1400/(E)
	中級	『ぼくが5歳の子ども兵士だったとき 内戦のコンゴで』/ジェシカ・ディー・ハンフリーズ・作, ミシェル・チクワニネ・作, クローディア・ダビラ・絵, 渋谷弘子・訳/汐文社/2015. 7/¥1800/(E)

	中級	『キング牧師とローザ・パークス 黒人の平等な権利を求めて』(伝記絵本世界を動かした人びと)/ラファエル・フリエル・原作, ザウ・絵, 高野優・監訳, 田中裕子・訳, 美濃部美恵子・訳/汐文社/2015. 7/¥2500/(E)
★	中級	『コルチャック先生 子どもの権利を求めて』(伝記絵本世界を動かした人びと)/フィリップ・メリュ・原作, ペフ・絵, 高野優・監訳, 坂田雪子・訳, 村田聖子・訳/汐文社/2015. 10/¥2500/(E)
	中級	『ワンガリ・マータイ 「もったいない」を世界へ』(伝記絵本世界を動かした人びと)/フランク・プレヴォ・原作, オーレリア・フロンティ・絵, 高野優・監訳, 坂田雪子・訳, 長井 佑美・訳/汐文社/2015. 10/¥2500/(E)
★	中級	『マザー・テレサ愛と祈りをこめて』/中井俊巳・作, おむらまりこ・絵/PHP研究所/2015. 12/¥1400/(E)
	中級	『アンリ・ルソー ひとりで学んで、画家への夢を追いかけた』/ミシェル・マーケル・さく, アマンダ・ホール・え, 志多田静・やく/六耀社/2015. 12/¥1400/(E)
	初級	『ひつじの王さま』/オリヴィエ・タレック・作, あさのあつこ・訳/くもん出版/2015. 12/¥1500/(E)

■東日本大震災を忘れない

★	幼児	『はなちゃんのはやあるきはやあるき』(いのちのえほん)/宇部京子・さく, 菅野博子・え/岩崎書店/2015. 1/¥1300/(E)
★	中級	『ダンゴウオの海』(ふしぎびっくり写真えほん)/鍵井靖章・写真・文/フレーベル館/2015. 1/¥1400/(E)
	中級	『そつぎょう ふくしまからきた子』(えほんのぼうけん)/松本猛・作, 松本春野・作, 松本春野・絵/岩崎書店/2015. 3/¥1300/(E)
	初級	『ぼくの天国ポスト』/寺井広樹・原案, 志茂田景樹・作, 福田岩緒・絵/絵本塾出版/2015. 10/¥1300/(E)
	中級	『きつといいことあるよ! 東日本大震災と人々の歩み』/戸塚英子・作/清風堂書店/2015. 12/¥1300/(E)

■戦後70年をうけとめて

	初級	『あなたこそたからもの けんぼうのえほん』/いとうまこと・ぶん, たるいしまこ・え/大月書店/2015. 5/¥1300/(E)
	幼児	『せんそうしない』/たにかわしゅんたろう・ぶん, えがしらみちこ・え/講談社/2015. 7/¥1300/(E)
★	初級	『彼岸花はきつねのかんざし 絵本』/朽木祥・作, ささめやゆき・絵/学研教育出版/2015. 8/¥1500/(E)
	上級	『Messageヒロシマ・ナガサキそしてフクシマからあなたに届けます。』/広島あおむしグループ・布の絵本制作, 長崎北部ゆりの会・布の絵本制作/梨の木舎/2015. 8/¥1200/(319.8)
★	中級	『タケノコごはん』(ポプラ社の絵本)/大島渚・文, 伊藤秀男・絵/ポプラ社/2015. 8/¥1300/(E)
	初級	『わたしの「やめて」 戦争と平和を見つめる絵本』/自由と平和のための京大有志の会声明書〈こども語訳〉・文, 塚本やすし・絵/朝日新聞出版/2015. 9/¥1300/(E)

■絵本の部■

講演：日本子どもの本研究会 絵本研究部 鈴木 佳代子

鈴木佳代子です。日本子どもの本研究会 絵本研究部会に所属しています。長いこと幼稚園に務め、毎日3～5歳の子どもたちと絵本を読みながら過ごしてきました。退職後は、児童書選書委員会など、新刊に出会う機会が増えて、新しい本を知るという環境に恵まれてきました。

■はじめに

2015年も1000点を超える絵本が出版されています。リストに表示した7割が、幼児からのグレード表示です。読み手の経験の差もあるため、日本子どもの本研究会(以下「絵本研究部会」)では、絵本についてのグレードは読み物とは違い、幼児(赤ちゃんを含む)・初級・中級・上級・中学生(大人)と表示してきました。

それでは経験を重ねれば、いくらでもグレードを上げていけばいいかと言えばそうではなく、発達の段階に応じて、子どもの興味や関心に寄り添いながら読んでいくものだと思います。

最近、「これ幼児向け？」という絵本も結構ありますが、修学前の「話し言葉期」の幼児にとっては、耳から沢山の話を聞いて、言葉を覚えたりイメージしていくという経験が大事だと思っています。

ところが、最近赤ちゃんの頃から、メディアの影響と言いますか、3歳くらいからほとんど自分で言葉を覚えてしまうという現状があり、「自分で読みなさい」という親御さんの言葉もあつたりするようです。「メディアにむしばまれる子どもたち」著者の田澤雄作さんは、そういったメディアへの警鐘を鳴らしています。今の子どもたち、疲れている子どもたちの現状を、こういう本で知ってほしいと思います。

また、人々の価値観も刻々と変化してきています。「多様化」と言えば収まりが良いですが、やはりそういった新しい価値観を反映した本だけではなく、基本図書として、昔から読み継がれている作品も子どもたちに経験してもらいたいと思います。

今年の絵本の特徴の中に、読み物が担ってきた領域に絵本が進出してきたということが言えると思います。何年か前から、確かなものを伝えたいということで「伝記絵本」などが増えてきています。また知識のジャンルの中でも、絵本の形態を取った本が増えてきていると思います。

また、リストに「絵本を楽しむ場が広がって」と書きましたが、2015年8月に刊行された『ちよつと不思議な絵本の時間 おとなが読みあい 語りあう』(かもがわ出版、2015年刊)を紹介したいと思います。これは、交通事故や病気などで後天的に障害を持たれた方々を対象とした支援施設の10年間の読み聞かせの記録です。この施設では、そういった方々が自分の言葉で話ができるようになるために、絵本の読み聞かせを10年続けておられます。後藤竜二さんなども活動に参

加し、本書でもコラムを書いておられますが、この本を読んで、改めて絵本の力はすごいと思いました。

子どもたちを取り巻く状況は様々ですが、人を人として信頼できて、価値観を育てていける絵本の役割を信じたいと思っています。また、絵本の世界を皆で十分に共有し、テーマなどを受け止めて語り合うと同時に言葉も共有し、言葉遊びの中でその絵本の世界を自分たちが更に発展させていけるような本を選びたいと思っています。そういう観点から、今年出版された本を紹介していきます。

■物語絵本—育ちの場としての子どもの遊びや日常を描いて—

まず、『ぼくが好きなこと』では、中川ひろたかさんは、自身の子ども時代の楽しかった“あそび”を紹介しています。ただ、その遊びを今の子供たちがしているかという点と難しく、住環境や生活、価値観の変化の中で遊びも変わり、絵本のテーマや内容も変わってきています。そんな中、「こうすれば失敗しないよ！」と道徳にぴったりはまりそうな本が増えているような気がします。失敗があり、けんかもあって「あ～あ」と共感しながら気付ける日常を描いてほしい…と、絵本研究部会では考えています。

そこで紹介したいのは、『[アンドルーのひみつきち](#)』。ものづくりの大好きなアンドルー、ついやり過ぎて、家族のひんしゅくを買って家出をします。はらっぱには、アンドルーと8人の仲間たちの、まるで小さな村のような秘密基地ができました。その頃、町では子どもたちがいなくなって、大騒ぎになります…。

50年前の子どもたちの自主的、創造的で一人前の様子に、今の子ども達にも、手段や方法は違っても、自由に想像的でいてほしいと願って読みました。

続いて『[カボチャのなかにたねいくつ？](#)』。チャーリーは学校が好き。そんなチャーリーは、背の順に並ぶのが気に入りません。小さいチャーリーはいつも一番後ろだから。そこで、先生が机に3つのカボチャを並べ、たねはいくつ入っているかを尋ねます。そして、子どもたちは数え方、作業の仕方、グループを決めて調べ始めますが、チャーリーはあることに気づきます…。最後にはチャーリーよるまとめも書かれています。この本では、「カボチャ」、「ハロウィン」、「調べ学習」、「倍数」などがキーワードになっています。

次に、『[あるひ、いつものがくどうで。](#)』。春、1年生のゆみとまこが、はじめて学童にやってきました。学童って何？ みんなで食べるおやつは楽しい時間。この本は、「学童ってこんなところ」ということを伝えています。内容は、少し物足りなくも感じますが、放課後の大事な場所として、こんなところもあるよ、という思いを込めて選びました。

■ “友達 “って…気持ちを考えてみよう

「友だちの気持ちを考えてみよう」をテーマに何冊か選んでみましたが、今回紹介するのは『[どんなきもち？](#)』です。

たとえば、「わくわく」「うきうき」というような気持ち。遊びや生活の中で身につけていく感覚と

言葉ですが、この本を通して個人が、また集団でこの本を読んだ時に、その感覚や言葉を皆で共有して、それが自分のものになっていったらいいなという思いで、何か教えるというよりは、楽しみながら身につける本として紹介しました。本文中の字も、オランダ人作者のミース・ファン・ハウトさんによるものです。

■「食」を通して、日常が豊かになる

知識ではなく、物語の本として食を取り上げたものがあります。昨今は、貧困や孤食などの問題も報道されていますが、食には「食材」「調理」「食べる」の3つの体験があり、どれも楽しいものです。物語絵本として「食」をテーマにした本は読み聞かせしていても、とても楽しくなりますね。

まずは『うめぼしさん』。

「うめぼしさん うめぼしさんは その むかし しろいはな あかいはな しろいはな うめの こえだで さいていた ほうほう ほけきよを きいていた」

これは、神沢利子さんによる絵本ですが、神沢さんはまず40代で詩を書き、60代でそれが紙芝居になり、90代を超えて絵本になって嬉しいと書いています。梅干しは古い食材だけど、お弁当などで子どもたちにも案外なじみがあるので楽しく、絵も美しい絵本です。

『にんじんのにんにん』。この絵本は、ふるやかおるさんの初めての絵本です。人工的なF1という一代限りの種で育つ野菜を知った作者が、植物本来の力による栽培を取材したことが、この本を作るきっかけとなったそうです。

土の中でねむる1本のにんじん。「そとは さむくて つめたい かげ。だけど つちの なかは あったかい。」やがて春がやってきます。にんじんのにんにんは目を覚まし、「よおし、はじめるぞ！ にんにん忍法、さいしょの術は— ぐんぐん どんどん のびるの術！」畑いっぱい、にんじんが育ちます。

滋賀県出身の作者が描く忍者は、伊賀・甲賀のどちらでしょうか。土や太陽の恵みで育つ植物の力を楽しい絵本にしてくれています。

■発想は楽しく一色々考えて 答えはひとつでないかも…

続いて『めがねがなくてもちゃんとみえてるもん！』。周り中から、本当にちゃんと「みえてる？」と心配されている女の子ページ。でも、ページは「ちゃんとみえてるもん！」。心配なお母さんは、ページを眼医者さんに連れていきます。そして、似合う眼鏡をかけて、よく見えるようになった時、本当に「ちゃんとみえてるもん！」。おそらく増えていると思われる近眼の子に読んであげると、「自分ももしかしたら…」と気付くのではないのでしょうか。絵本らしい魅力がある本です。

■不思議な世界は、想像を膨らませて

何かを想像することは、今の子どもたちにはとても必要なことではないかと思っています。

そこで紹介するのが、アフリカ民話『しんぞうとひげ』。

「むかし むかし、 あるところに、 しんぞうとひげがおりました。 ～中略～ しんぞうは、21にちものあいだ なにも たべられず、 はらぺこで しにそうです。ひげは、21にちものあいだ なにも たべられず、 はらぺこで しにそうです。」

そこで、しんぞうとひげは知恵を働かせ、それぞれおさまりの良いところへ落ち着くのです。どこだか分かりますよね。

1960年代から、6色のペンキでのびのび鮮やかに描かれた「ティンガティンガアート」。作者の島岡さんは、アフリカ、ザンジバル、タンザニアを拠点に経済活動支援をされている方です。（「しんぞうとひげ」奥付より）2012年出版の『アフリカの民話』（バラカ刊）という22の短編を集めた本を出版されています。その一番最初に「しんぞうとひげ」が収録されています。島岡さんは、アフリカという国で語りつがれたお話の大事さを伝えているほか、「はらぺこ」であるという状況を考えてほしいと書いています。厳しいアフリカというところでの生活が見えてくるのではないかと思います。

次は、『夜の神社の森のなか』。少年たちは神社であそんでいました。日も暮れ始めた頃、一人の少年が不思議なものを見つけて、かばんに入れます。夜、花火を見に行く約束に、道を急ぐケンジの前に妖怪たちが現れて、大テングのウチワを持っていないかと尋ねます。今、返しにいくところだったと答え、神社の森の中へ…。民話の世界にもつながる、こわ〜い話。明るい電気の消えることのない世界で暮らしている私たちは、このモノクロの世界にドキドキさせられます。肝だめしと同じ感覚で、ドキドキ感がありつつも、最後は明るい世界へ抜け出すことができるお話で、男女問わず2〜3年生あたりの子供達に渡したいなと思った本です。

■有名作家の作品も、語りつがれたお話も、家族など小さな輪の読みきかせで

マイケル・モーパーゴなど有名作家の原作に加え、力のある方々が翻訳された、とても上質な作品もありました。家族など小さな輪で繰り返し、読み聞かせてもらったなら、想像の翼が広がるかと思えます。

その中でご紹介するのは、『子どものためのラ・フォンテーヌのおはなし』。巻末に、この絵本についての説明があり、歴史のある絵本だと思います。「コウノトリとキツネ」など、見開き2ページで1話の形態となっています。絵本研究部会でこの本を取り上げた際、学校図書館など、子どもがひとり読みするような場面で子どもは手に取るだろうけれど、この形態では「いつも読む本と違う」と読み切れずに、本を閉じてしまうのではないかとの意見もありました。教訓的で堅苦しいと思われがちな寓話の世界ですが、小学校などで先生が1日1話読んだり、複数冊読める時に、大人が手渡す1冊としてお薦めではないかと思えます。

■動物や小枝が大活躍

『セイウチくんをさがせ！！』。動物園から逃げ出したセイウチくん。飼育員さんがセイウチくんを探していますが、見つけれられるでしょうか？ とてもスマートな絵で魅力があり、ストーリーもしっかりした作品です。会話が弾みますし、こだわりの強い子どもにも、このセンスの良さは伝わるのではないのでしょうか。

■自然・生活など知識絵本の魅力

毎年、写真絵本など、この分野の絵本は確かな中身を伝えてくれて、子どもたちとの会話もはずみ、テーマ・内容共にとても健闘しています。

1冊目は『ハートのはっぱかたばみ』。「かたばみの めじるしは ハートの はっぱ。 ちいさ

な ハート。 みつつの ハート。 わたしを さがしてくださいな。」 かたばみの一日の様子、晴れや雨の時などが描かれています。昔の人々は、かたばみを「すいものぐさ」(すっぱいくさ)と呼びました。わたしもかたばみを探してみましたが、滑り台の下に見つけました。最近の知識絵本は読んだ後、自身も「見つけてみたい」と思った時に、その題材が見つかりやすく、本で紹介されていることが試しやすいというように、読者もすぐに行動に移せるというものが多く刊行されているように思いました。

次に『ごはん』。食べることは、年齢を問わず皆が盛り上がれますよね。美味しそうな、色々なご飯が紹介されています。「がいこくごはん」というジャンルもあります。とても美味しそうに描かれ、最後の太巻きは、私も食べたくなりました。

『ぼくの先生は東京湾』の作者である中村征夫さんは、1977年に初めて東京湾に潜ったそうです。当初はとても汚れていた東京湾。赤潮が発生し、生き物たちはその影響を受けていました。その原因は生活排水。多分の栄養のせいで海のバランスが崩れてしまいました。現在では下水道も整い、随分ときれいになった東京湾の写真も掲載されていますが、一度汚してしまうと、元に戻すのは難しい。東日本大震災の後もそうですが、再生の難しさを東京湾から学ぶことができます。タイトルはそれを物語っています。

このところ、美術館や博物館に関わった本も刊行されました。その1冊が『イーダ』。この本は、オスロの自然史博物館の方々が作った本です。2015年夏、東京 上野の国立科学博物館で小さなサル化石が展示されました。ほぼ完全に残った化石で、4700万年前に生きたサルのものであると分かりますが、どうしてこの美しい化石が残されたのでしょうか。そこから、イーダの話が始まります。

前半は、イーダが化石になるきっかけになった事件が物語形式で進み、その後、化石発掘など科学的な話、事実に基づいた知識絵本の体裁を取っています。

続いて『チョコレートだいすき』。「ぼくは、チョコレートがだいすき！ チョコレートはいつでもおいしい。どんな季節でも、どんなときでも！ でもとくに、こんなときにはかくべつにおいしい…。」チョコレートをどう食べたら美味しいかなど、チョコレート好きな人々へのアドバイスがあり、巻末にはフェアトレードについても書かれています。

この本はワールドライブラリーという出版社から刊行されています。ワールドライブラリーでは、貸本事業も行っているそうです。(注1)ここ数年、出版の形も様々です。

『子どもばやしのお正月』。「ランドセルブックスシリーズ」の1冊です。身支度を整え、皆でお囃子をします。秩父地方には、50もの伝承文化があるそうですが、少子化や指導者不足など、伝承危うしというニュースを知りました。これらの文化を意識的に取り上げようという動きから、この度「ランドセルブックス」として刊行されたそうで、ご紹介しました。

■幼い子の絵本

出版される絵本の多くが、グレードを幼児としていますが、なかなか良い本に出会うことは難し

いと言えます。私自身は仕事上、幼い子どもたちと長年接してきましたので、作者・編集者の方々にはもう少し、発達に即した表現など配慮いただいた上で、本を作っていただけたらと思うところ
です。

次にご紹介するのは『はみがきれっしやしゅっぱつしんこう!』です。たっくんは歯みがきが大嫌い。そこへやってきたのは、歯ブラシたちです。「ぼくは はぶらし はみがきれっしやしゅっぱつしんこう しゅっ しゅっ しゅっ」はみがきれっしやしゅっが灯りをつけると、かすがいっぱいの口の中。これを見ると、歯みがきが苦手な子たちも「これは、何だろう」と思いながら読み進み、歯みがきができるようになるのではないのでしょうか。

長新太さんの『ぼうし』。2015年は、長新太さん没後10年という年でもあります。(注2) どうぶつたちがぼうしをかぶったら…。読み聞かせを聞いた子どもたちには、長さんの楽しさが伝わったようです。

『のげしとおひさま』の作者は、2015年刊行『稲と日本人』(福音館書店)で、10年の歳月を取り込まれた甲斐信枝さんです。

のげしは、かえるやありのように好きなところへ行きたいと思いました。その時、黄色い光が差し込んで、おひさまが言いました。「わたしの ひかりを いっしょうけんめい すいこんでいけば、きっと どこかへ いけますよ」。そして、のげしは綿毛になって飛んでいきます。

『ののちゃんのママごっこ』。おとうとのぼぼくんが生まれて、ママはぼぼくんにかかりつきり。つまんないな…。ののちゃんは、いいことを考えました。ののちゃんは「きょうから わたしも ママになります。」と、まくらを赤ちゃんに見立てます。その時お母さんは、古くなったパパのマフラーや、小さくなったののちゃんの服で、赤ちゃんの支度を手伝ってくれました。弟や妹が出来た時のお話はよくありますが、子どもに大人の対応を求めるのではなく、子ども自身の成長を見せる本です。

■生き方を考えさせてくれる絵本

『絵本で学ぶイスラームの暮らし』。アフマドという10歳の男の子の目線でイスラームの暮らしを紹介しています。10歳はイスラームの教徒として、少しずつ大人と同じ行動をとり始める年齢であるそうです。神様にお祈りをするために、手足をきれいに洗います。また、ラマダーンでは9月の1ヶ月、お日様の出ている間、大人たちは断食をします。食べ物のない人の気持ちが分かるようにというアラーの神様の教えによるものです。全世界に多くのイスラーム教徒がいる中で、私たち日本人はあまりイスラームのことを知りません。巻末には、細かな説明もあります。違う文化を正しく知るといことは大切なことだと思います。

『ぼくは、チューズデー』は、ベトナム帰還兵に寄り添う介助犬のお話です。時間では癒せない心の傷に、チューズデーが寄り添います。戦争は様々な傷を負わせるのだということを感じる本です。

『パパ・ヴァイト』。ドイツ人のオットー・ヴァイトは、自身もほとんど目が見えない人でした

が、ナチスによるユダヤ人迫害が厳しくなっていく中、目の不自由なユダヤ人のために盲人作業所をつくり、その命を守っていました。戦争で使う武器のためのほうきやブラシを作ることで、彼らの生活自立を支援し、迫害から守る活動を続けていたのです。ナチスによるユダヤ人迫害について知っていましたが、1938年には、ユダヤ人の子どもは公立学校に通ってはいけない、1942年には、ユダヤ人の家族が住む家には「ユダヤ人の星」の目印を必ずつけなければならないなど具体的なことまで書かれ、色々なことが分かりました。

本にも書かれています。ヴァイトの行いは私たちに様々なことを問いかけてきます。命がけで他人を守る勇気はどこから湧いてくるのでしょうか。興味が膨らみます。この本をきっかけに、違う本への興味も湧いてくるのではないかとも思いました。

『王さまと王さま』。女王さまは、息子の王子さまに、結婚してこの国を治めよと言います。ところが、どのお姫さまもしっくりいきません。しかしある日、王子さまの結婚式が執り行われます。オランダの本ですが、LGBT—レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーをテーマに扱った本です。我が国も、憲法13条「幸福追求の権利」に則って考えていきたいテーマです。

2014年から、何冊か『星の王子さま』の作者、サン＝テグジュペリの伝記絵本などが刊行されましたが、『飛行士と星の王子さま』もその1冊です。今から100年以上前、20世紀が始まる前の年に、フランスで将来、冒険家になる愛らしい男の子が生まれました。世界は心躍る発見の時代でした。また、それまで夢でしかなかったものが次々に発見され、その中に、空を飛ぶための機械もありました。そうした中で、サン＝テグジュペリは飛行士になる夢を広げ、色々な本を書いていきます。作者ピーター・シスが物語と共に時代系列を追いながら、様々なエピソードを小さな字で紹介していて、絵本でありながら読み物でもあり、絵も美しく、絵本研究部会の大人たちは楽しんで読みました。どういったタイミングでどのように紹介するかは、その場でも話題になりましたが、方法は色々あるように思います。

『ノックノック』。父親不在の男の子の成長を励ますメッセージが伝わる、まさに生き方を示す絵本です。毎朝始まったお父さんとのノックゲーム。しかし、ある日ノックが聞こえなくなります。教えてもらいたいことや、一緒にしたいことがいっぱいあったのに…。何日も待った後、お父さんからの手紙が届きます。手紙には「ノックしなさい。おまえの ゆめに つながる あたらしい ドアを。」というお父さんからの言葉が。少し暗めの絵ですが、男の子の気持ちがすごく伝わってきます。読み取っていくと奥が深く、どう使うか難しい本ではありますがご紹介しました。

『コルチャック先生』。汐文社「伝記絵本 世界を動かした人々」全4巻の1冊です。自身の生い立ちを元に「子どもは、明るい心でのびやかに育つべき」と考え、1912年「孤児たちの家」をつくります。「子どもはおとなの思いどおりに動くあやつり人形ではない。まずはありのままを受けとめたうえで、よい方向に伸ばしていく必要がある」という考えの元に、子どもの力を引き出す活動を行います。

子どもの権利を求めて講演活動を続け、1924年、国際連盟で50ヶ国以上の国によって「ジュネーヴ宣言」が採択されました。(同書 p.39 より)それが今の子どもの権利条約に結びついていま

す。物語は1942年8月、コルチャック先生と孤児の家の子どもたちが、トレ布林カ絶滅収容所に移送されていくシーンで終わります。

『ぼくたちに翼があったころ』(福音館書店、2015年9月刊)と同様にこの絵本も、大戦勃発の数か月前が描かれています。コルチャック先生をテーマにした本は他にも多く刊行されていますが、この絵本を入口に、子どもたちを読み物へ誘う組み合わせをしていけば良いのではないかと思います。

続いて『マザー・テレサ』は、日本人の作者により書かれた本です。マケドニアの少女 アグネスは12歳の時、インドという遠い国の話を聞きました。以来、いつかインドの貧しい人々のために働きたいという夢を持つようになりました。そして18歳の時、インドの高校の先生になり、その頃から“シスター・テレサ”と呼ばれるようになりました。本書では、マザー・テレサの言葉をゴシックで示し、その活動やエピソードを伝えています。このまま読み聞かせて“マザー・テレサ”を伝えることができる本だと思います。

■東日本大震災を忘れない

5年経ちましたが、被災者、地域の復興はまだです。あの日の津波を前に、人の力はなんと小さいのか…という思いもありましたが、それでも時間が経ち、命からがら避難された方々の話を知ると、そうした教訓を風化させずに、被害を少なくすることを伝えていくことの大切さ、今後どのような生活を目指すかということ、考えていかなければならないと思います。

『はなちゃんのはやあるきはやあるき』。はなちゃんの通うあさひほいくえんでは、毎月1回避難訓練を行います。のんびりやのはなちゃんは、いつも遅れ気味。はなちゃんの村も、東日本大震災の巨大津波であつという間にさらわれてしまいました。いつもの避難場所では危険と、はなちゃんもみんなも「つなみ てんでんこ てんでんこ てんでんこ」とはやあるき。高台を目指し避難していきました。岩手県の保育所での話を元に描かれた作品です。保育園でのお話なので、大きい子から小さい子まで、こういったことが分かりやすく伝わるのではと思います。

『ダンゴウオの海』。震災の年の4月から、岩手県宮古湾周辺を、定期的に撮影を続けた鍵井靖章さん。震災直後に潜ることは勇気のいることだったと振り返ります。人工物ばかりが沈む海底に、ウニやアワビは見かけるものの、魚の姿は見当たらず、わずかにダンゴウオと出会ったそうです。人工物の中を泳ぐ魚たちの姿は、どこかちぐはぐ。プラスチックは細くなって海水に溶け、タイヤは200年かけて自然に帰ります。この本は、海が全ての受け皿になっていることを読者に教えます。私たちはかけがえのない自然を大切にできるのでしょうか。写真はリアルに伝えてきます。

■戦後70年をうけとめて

『彼岸花はきつねのかんざし』。おきつねさんは人を化かします。也子(かのこ)の前に現れたのは、まあい目をした小さなきつね。2人はともだちになる約束しました。そんな1人と1匹を、1発の爆弾がいやおうなしに引き裂きました。2009年出版された物語の絵本版。(同書「あとがき」より)朽木祥さんの、少しでも読みやすい形で広めたいという気持ちが伝わります。ささめやゆきさんの絵もとても美しく、心に残ります。字も多く、絵本というよりは読み物であり、内容

は少し簡略化されていますが、戦争が引きおこす悲しみと残酷さがとても伝わる本なので、年齢の幅を広げて紹介したいと思います。

『タケノゴはん』。戦争というのは、いわば「国と国のケンカ」。日本という国がケンカしていた訳で、強いことがいいことという風潮でした。ぼくたちの組で一番強いさかいくん。弱い者いじめをするような子ではありませんでしたが、お父さんの戦死からさかいくんは少し変わります。やがて、ぼくたちの先生も兵隊になって出征していき、代わりに色白で優しい先生が来ました。しかし、この先生も戦地に行くことになり、子どもたちは先生の家押しかけます。そこでタケノゴはんがふるまわれますが、さかいくんは泣きながら食べていました…。

今は亡き大島渚氏が、息子・武さんの宿題に応え、書いたストーリーです。大島氏は日頃、「自分で考えることができる人になってほしい」と武さんに言っていたそうで、この作品も身近な先生や友達を描いて、思いを想像してほしいと思ったのでしょう。

絵本『彼岸花はきつねのかんざし』の作者の朽木祥さんが、あとがきで、「戦後七十年経って「あの日」はますます遠くなり、証言や記録が私たちに届くことはいつそう難しくなっています。まして子どもたちにとっては、戦争も原爆も遠く過ぎ去った日々のことではありません。」と綴っています。東日本大震災、そして福島での原発事故から5年。事が起これば、希望や未来を壊してしまう。そして一番厳しい状況に置かれるのは、力の弱い人たちや子どもたちです。

現在、国内外で不穏な風が吹いています。いつまでも「戦後」という言葉で済ませられればよいのですが、決して他人事ではない動きもある中で、そういったことに思い至ってもらえるような本を手渡し、伝えていきたいと思います。

(於：株式会社図書館流通センター 2016年3月7日・8日)

注

1)株式会社ワールドライブラリー「RENTAL」

<https://www.worldlibrary.co.jp/rental>

最終確認日：平成28年5月1日

2)のら書店「ぼうし」

<http://www.norashoten.co.jp/books/post-238.html>

最終確認日：平成28年5月1日